

別紙2 新たに「選定」した建物や庭園

NO	選定番号	区	選定名称	推薦理由（抜粋）
1	第 11-029 号	山科	はせがわ 長谷川家	明治期に建てられた旧東海道に面した民家。昭和初期に増築した建物は、「栄花山荘」と名付けて借家として利用されている。
2	第 11-030 号	北	さんしゅうじ 讃州寺	創建当時は独立した寺だったが、大徳寺塔頭玉林院下に入り、17世紀半ばに現在地に移転した。現在は、方丈、仏殿があり、本尊は地藏菩薩で、鎌倉期の作と伝えられる。毎年8月には地元の人たちが集まり、地藏盆を行っている。
3	第 11-031 号	左京	きよふうどう 去風洞	花道の家元「去風流」は、元禄14年（1701）、流祖「去風」により始められた。現在の「去風洞」は大正末期に7世「一草亭」が自宅兼教場として建築し、夏目漱石や九条武子ら近代知識人と生花を通して豊かな交流が展開された。
4	第 11-032 号	東山	ほりい 堀井家	昭和16～18年（1941～1943）頃に建築されたと思われる高塀形式の町家。かつては代々小菱屋太兵衛の屋号で経木屋を営んでいた。現在の建物は廃業後に建て替えられたもので、伝統的で落ち着いた町並みに寄与している。
5	第 11-033 号	山科	あみだじ 阿弥陀寺	旧三条通沿いの参道から至る敷地に建つ浄土宗寺院。本堂は、享保8年（1723）建立と思われる。門の化粧瓦には竹が描かれ、四隅に桃の瓦が配置されるなど趣向を凝らした意匠を施す。
6	第 11-034 号	山科	あんしょうじ 安祥寺	嘉祥元年（848年）に天徳天皇の母・藤原順子の発願により恵運により再建された真言宗寺院。現在は、江戸時代に再建された本堂、地藏堂、大師堂等がある。
7	第 11-035 号	下京	はし たか橋	五條楽園に残る、お茶屋の面影を残す建物。1階床下には第二次世界大戦中に造られた防空壕痕も残り、歴史の生き証人のような存在でもある。
8	第 11-036 号	下京	つるせ 鶴清	鴨川沿い松原上ルの「鮒鶴」から分家し昭和初期に建てられた総檜造、三層楼閣の料理旅館。3階の舞台付き 200帖敷き大広間からは鴨川の清流や東山が見渡せる。伝統を守り続ける老舗ならではの格式高いもてなしの場である。

NO	選定番号	区	選定名称	推薦理由（抜粋）
9	第 11-037 号	右京	ヘレスバック・ルノー家	200 年以上前に建てられたと伝わる民家。周囲には小塩川や森が混在し、山の景色が美しい。茅収穫のような交流や助け合いを存続するためにも、茅葺き屋根で始まった家本来の姿に戻したい。
10	第 11-038 号	伏見	おぐりすはちまんぐう 小栗栖八幡宮	本殿・拝殿・末社・神輿蔵・鳥居で構成される。創建は平安時代で、国宝・石清水八幡宮の分霊を奉還されたと伝わる。氏子一同が維持・管理・諸行事の運営に携わりながら、世代を越えて八幡宮催事の継承に努めている。
11	第 11-039 号	山科	びしやもんだう 毘沙門堂	寛文 6 年（1666）に建立された本堂には、伝教大師（最澄）の自作で延暦寺根本中堂の御本尊薬師如来の余材をもって刻まれたと伝わる毘沙門天を安置する。向唐破風造の門などは京都では珍しいと感じる。
12	第 11-040 号	下京	すみや 角屋	島原にある江戸期の揚屋建築の唯一の遺構。螺鈿細工を施した「青貝の間」や、大正期に再建された「松の間」から眺める庭は格別で、「臥床の松」が角屋のランドマークである。
13	第 11-041 号	下京	わちがいや 輪違屋	島原にある置屋で、唯一現存するお茶屋。幕末に再建後、明治期に改築された。「傘の間」や「紅葉の間」などの襖や屏風、中庭は見事である。